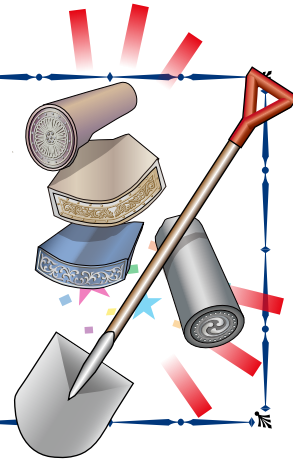


植物園北遺跡の発掘調査

調査期間：令和4年1月26日（水）～ 2月10日（木）

調査機関：京都市 文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課



1 周辺の立地について

植物園北遺跡は賀茂川と高野川の合流地点の北西方向に位置する賀茂川の扇状地上にかけて広がる遺跡です。今回の調査地は植物園北遺跡の北西部に位置し、周辺には賀茂別雷神社（上賀茂神社）や大田神社などの神社が存在しています。今回の調査地で個人住宅新築工事が計画され、重要な遺跡が見つかる可能性が高かったことから、発掘調査を実施しました。周辺は室町時代以降、上賀茂神社の社家町が形成されている場所として知られています。現在の社家町には東西方向に上賀茂本通が通っています。上賀茂本通沿いには京都市指定名勝である西村家庭園や、京都市指定有形文化財（建造物）である梅辻家住宅などが存在しています。また、調査地から約450m西には、伝統的建造物群保存地区が存在し、風情ある景観を見ることができます。

2 周辺の発掘調査成果

周辺の発掘調査では、上賀茂小学校や小学校の北側などで発掘調査が実施されています。平成元年に実施された上賀茂小学校の北側の発掘調査では、竪穴建物を8棟確認しています。そのうち古墳時代前期のものが2棟、古墳時代後期のものが6棟であることが確認されました。さらに、鎌倉時代後半の井戸や室町時代の社家町を構成する土坑など多数の遺構を確認しています（図1 調査①）。また、平成5年の上賀茂小学校の発掘調査でも古墳時代前期の竪穴建物が3棟確認されたほか、平安時代の掘立柱建物も確認されました（図1 調査②）。

今回の調査地の隣接地で、令和3年に宅地造成に伴う発掘調査が実施され、飛鳥時代の竪穴建物や平安時代か

ら室町時代にかけての柱穴や土坑などが確認されています（図1 調査③）。以上のように、周辺では古墳・飛鳥時代の竪穴建物や平安から室町時代の遺構が多数確認されている地域になります。

今回の発掘調査は令和4年1月26日から2月10日まで、作業日の延べ日数は12日間で、面積は約61㎡を対象に実施しました。

3 今回の発掘調査成果

今回の調査では、平安時代から室町時代にかけての柱穴群や土坑群などを確認しました。注目される遺構の一つは、南北1.3m、東西0.4mの楕円形の土坑です。土坑の埋土には径20cmの石が多量に含まれ、室町時代の土師器皿や鍋が出土しました。また、今回の調査では古墳・飛鳥時代の竪穴建物を確認することはできませんでしたが、鎌倉時代から室町時代の遺構が多数確認されたことから、中世以降に土地利用が行われていたことが確認できました。冒頭でも述べたように、調査地周辺は室町時代以降、上賀茂神社の社家町として形成されており、社家の人々や農民が混在して集住していました。享保4年（1719）「社領絵図」（上賀茂神社蔵）などを見ると対象地周辺は社家町が形成された家が立ち並んでいることが分かります。さらに、『日本の町並み調査報告書集成』によるとこの絵図から、社家住宅と一般農家が描き分けられていないことが着目され、社家住宅と農家が未分化状態であったと推測されています。今回確認した遺構は中世の遺構が主体となり、室町時代以降に社家町が形成される時期と同じ時代の遺構が確認されたことから、社家町形成に関連する人々の痕跡が確認できたものと言えるでしょう。

（清水早織）



図1 調査地位置図



図2 社領絵図（上賀茂神社蔵）



図3 1区全景（南西から）



図4 2区全景（北から）

※参考文献 村上久一ほか編「9 近畿地方の町並み」『日本の町並み調査報告書集成』東洋書林 2003